View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kawasaki University of Medical Welfare Institutional Repository

川崎医療福祉学会誌　Vol. 27　No. 2　2018　347－357

原　著

特別活動の指導に関する学校現場の多忙感に関する研究
―学校行事に焦点を当てて―

田中真秀[*1]　佐久間邦友[*2]　佐藤典子[*3]

要　　約

本論文の目的は，特別活動における学校行事に焦点を当てて，学校現場の多忙感・負担の要因についていくつかの事例をもとに考察することであった．本論文では，現行の特別活動における学校行事の指導と新･学習指導要領改訂に伴う学校行事の指導を比較研究した．これまでいくつかの研究では，日本の教員が諸外国と比較して長時間勤務であることが指摘されてきた．特に，課外活動において，日本の教員の時間負担が長い．そこで，教員にとって，学校行事の多忙の要因を明らかにすることにより，教員の負担を少なくすることができるのではないかと考えた．また，教員の多忙化や多忙感については，政府も高い関心を示し様々な施策が実施されているところである．多忙化の原因については，保護者や地域対応，教科指導，部活動など諸説あるが，それらが複層に重なることによって生じていると理解されている．その結果，文化的行事，健康安全・体育的行事，儀式的行事それぞれの負担とそれに付随する負担が明らかになった．教員は通常の授業（教育活動）及び校務分掌に加え，学校行事などの諸活動の準備を校内のみならず校外とも協働して行っている．準備のための時間は，子供たちへの教育活動のためには必要不可欠ではあるが，準備等に教員の労力が割かれている．他の教育的指導への影響および教師個人の精神面など，ワークライフバランスが崩れることが危惧される．今後は，行事だけでなく特別活動のさまざまな場面において，教員の負担を見直し，コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）や学校支援地域本部事業などを活用し，多少とも教員の多忙および多忙感を軽減することを特別活動の観点からも検討すべきである．

1．はじめに

OECD 国際教員指導環境調査（TALIS：2013）[1]によれば，日本の教員の一週間当たりの勤務時間は53.9時間であり，調査参加国平均38.3時間よりも15.6時間も勤務時間が多い．特筆すべきは，授業時間は調査参加国とほぼ同程度であるが，日本の教員は課外活動の指導時間は調査参加国平均よりも約3倍多いことである（日本:7.7時間，調査参加国:2.1時間）．このように日本の教員の勤務時間は諸外国と比較しても極めて長く，特に課外活動の時間が長いことが課題である．

これまでに教員の多忙感に関する研究は，北神と高木による一連の研究[2,3]をはじめ，ストレスやメンタルヘルスなどの視点から数多くの研究がある．また布川[4]は，公立高等学校の教師に対して聞き取り調査を行い教師の多忙と多忙感を明らかにしている．神林[5]は，これまで国内で行われた教員の労働時間調査などの結果を整理し，小・中学校での課外活動や特別活動の変容を明らかにしている．

教員の多忙化や多忙感については，政府も高い関心を示し様々な施策が実施されている．多忙化の原因については，保護者や地域対応，教科指導，部活動など諸説あるが，それらが複層に重なることによって生じていると理解されている．

本稿で取り上げる「特別活動」が教員の多忙化にどのような影響を及ぼしているかは，神林[6]が教員の労働時間調査の比較のなかで触れており，「近年の学校教育では，特別活動の占める比重はこれまで

*1 川崎医療福祉大学 医療技術学部　健康体育学科
*2 郡山女子大学家政学部　人間生活学科
*3 東都医療大学　管理栄養学部　開設準備室（2018年４月より，東都医療大学　管理栄養学部　管理栄養学科）
（連絡先）田中真秀　〒701-0193　倉敷市松島288　川崎医療福祉大学
E-mail : mahotanaka@mw.kawasaki-m.ac.jp

と変わらないものの，生徒指導や部活動指導といった課外活動の比重が大きくなっている（p.229）」と指摘している．特に，神林は，特別活動のなかでも「学校行事」を取り上げ，1950年代に実施された全国教育調査研究協会の調査を援用し，実態を4類型に分けている．例えば，「遠足・修学旅行」は生徒が喜ぶと思う学校行事として最上位（21.7％）に挙がる一方で，最も事故が生じやすい学校行事の上から二番目に挙げられている（最上位は水泳指導（36.2％））．日課を乱すことが多い学校行事として上位3つには，運動会・体育会（22.0％），対外的体育会（13.4％），学芸会・文化祭（12.1％）が挙げられた．つまり，特別活動において特定の行事が教員の負担感の原因となるのではなく，行事に付随する諸々の事情が教員の多忙を感じる原因になっていると予想できる．

そこで，本稿では，上記の予想を解明するべく，特別活動の中でも特に学校行事に焦点を当てて，教員の多忙感の要因を検討する．学校行事とは，子供たちの学校生活に秩序と変化を与え，集団への所属感の深化，学校生活の充実等を促す体験的活動である．一方で，儀式的行事に来賓を呼ぶこと，文化的行事の発表会など，多くの学校行事は学校内部で完結するものではなく対外的な要素が出てくる．つまり，教員にとっては児童・生徒への教育的指導に加え対外的な諸活動が生じる．教員にとって一番大切である児童・生徒と向き合う時間が減少することは多忙感を感じる契機になるであろう．これまでの特別活動における学校行事の指導と新・学習指導要領改訂に伴う学校行事の指導を比較し，「学校行事における学校現場の多忙感・負担の要因」をいくつかの事例をもとに考察を試みる．

2．特別活動における学校行事の位置づけ

2．1　特別活動の目標

特別活動は，小学校の学習指導要領[7]において「望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，自己の生き方についての考えを深め，自己を生かす能力を養う」ことを目的としている．中学校の学習指導要領[8]では，「（小学校と前半同じ）人間としての生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う」，高等学校の学習指導要領[9]では，「（小学校と前半同じ）人間としての在り方生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う」ことを目的としている．

2．2　特別活動における学校行事の位置づけ

特別活動は，①学級活動（高校はホームルーム活動），②児童会活動（中学校・高校の場合は生徒会活動），③クラブ活動（小学校のみ），④学校行事が挙げられる．本稿で取り上げる④学校行事は，「学校行事を通して，望ましい人間関係を形成し，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる」ことが目標である．学校行事の内容としては，①儀式的行事，②文化的行事，③健康安全・体育的行事，④遠足・集団宿泊行事（中学校・高校の場合は旅行・集団宿泊的行事），⑤勤労生産・奉仕的行事の5つに分類されている[10]．

2．3　特別活動の課題

特別活動の課題は，児童・生徒の学校生活の充実や楽しさにつながっている反面，資質能力の育成には必ずしもつながっていないことが挙げられる．それでも学校行事を行う理由は，集団活動を行うことで公共の精神が養われること，児童・生徒の学校・学級への所属意識や連帯感が高められること，学校生活の秩序維持に貢献するといった教育的側面において重要な役割を果たしているからである．

一方で，学校行事は，教員にとっては負担・負担感が大きい活動となる．例えば文化祭や体育祭では，正規の授業時間以外にも準備が必要となり，同時に安全面や指導については放課後の時間を利用して継続して行うことが必要となってくる．また，遠足・集団宿泊行事では，当日以外に下見といった負担もある．

3．新・学習指導要領における特別活動

3．1　新・学習指導要領の概要

新・学習指導要領のポイントの1つに教育課程の理念となる「社会に開かれた教育課程」がある．次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）の参考資料[11]によれば，「社会に開かれた教育課程」とは，以下の3つである．

①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ，よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち，教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと．

②これからの社会を創り出していく子供たちが，社会や世界に向き合い関わり合い，自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを，教育課程において明確化し育んでいくこと．

③教育課程の実施に当たって，地域の人的・物的資源を活用したり，放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし，学校教育を学校内に

閉じずに，その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること．

つまり，情報化，グローバル化など急激な社会変化の中でも，子供たちが未来の担い手となるよう必要な資質能力を確実に備えることができるような学校教育実現に向け，教育課程を社会全体で共有していくことが重要視されているといえよう．

３．２　特別活動の変化

３．２．１　現行学習指導要領の成果と課題

現行学習指導要領の成果と課題について，次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについてでは，「特別活動における集団活動は，集団への所属感，連帯感を育み，それが学級文化，学校文化の醸成へとつながり，各学校の特色ある教育活動の展開を可能としており，このような特別活動は，我が国の教育課程の特徴として，海外からも高い評価を受けている（p.308）」[11]と述べている．しかし，その一方で今後の課題として，①育成を目指す資質・能力の視点，②学習指導要領における内容の示し方の視点，③複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点の3つが課題として挙げられている．

３．２．２　具体的な改善事項

教育課程の示し方の改善として，資質・能力を育成する学びの過程についての考え方や指導内容の示し方などが挙げられる．本稿で取り扱う「学校行事」に目を向けてみれば，「児童会活動・生徒会活動，クラブ活動，学校行事においても，それぞれの活動を通して，育成を目指す資質・能力を明確化する方向で目標及び内容の示し方を改めることが必要である．各学校において，各活動等を通じて育成を目指す資質・能力と，その実現に必要な活動内容を十分考慮し，必要かつ適切な時間数を確保することが必要である（p.311）」と述べられているだけであり，教育内容の改善・充実を含め，学校行事について特に特筆するべき事項は見当たらない．

次に，学習・指導の改善充実や教育環境の充実等では，「主体的・対話的で深い学び」の実現や教材や教育環境の充実が掲げられている．次期学習指導要領においては，「社会に開かれた教育課程」，「チームとしての学校」がキーポイントとして挙げられており，地域との関係性を下記のようにまとめている．地域との連携・協働に当たり，活動を通して育てたい資質・能力を地域と共有することが必要である．子供たちが地域の行事への参加，地域の課題解決に向けて取り組むなど大きな役割を果たすことにより，資質・能力を生きて働くものとして成長させたり，学習意欲，自己肯定感を醸成させたりするとともに，地域教育力の向上，地域の活性化，学校との信頼関係構築にもつながる．コミュニティ・スクールの枠組みの積極的な活用や，地域学校協働本部との協働，教育委員会と首長部局との連携も重要である．

つまり，学校行事に加え，地域の行事などの重要性を表していることから，学校のみならず地域社会との関係性もこれまで以上に重要になるであろう．特にコミュニティ・スクールの積極的な活用事例として，小学校の運動会において地域住民のための種目を設けている学校もある．

３．２．３　学校行事の学習過程

特別活動における学校行事の学習過程のイメージとして，まとめでは，①行事の意義の理解（現状の把握や課題確認・目標設定），②計画や目標についての話合い，③活動目標や活動内容の決定（活動内容の合意形成），④体験的な活動の実践（他者と連携した実践），⑤振り返り（まとめや発表を通して実践の継続や新たな課題発見）という一連のサイクルを重視している．

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成，社会参画，自己実現）は，①から⑤の活動の各所に示されているが，全体を通して「よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など」という「人間関係形成」の視点を重視している．

このことから，教師は子供たちの学習過程における育成すべき資質・能力を考慮し，各活動内容において適正な学習指導を行わなければならないだろう．

４．文化的行事における教師の負担要因―文化祭を参考に―

４．１　特別活動における文化的行事の意義

現行の学習指導要領において，文化祭等は，学校行事の文化的行事に位置づけられている．内容は，「平素の学習活動の成果を発表し，その向上の意欲を一層高めたり，文化や芸術に親しんだりするような活動をおこなうこと」を指している．

特に，学習指導要領にも示されているように，「学校や地域及び生徒の実態に応じて，種類ごとに，行事及びその内容を重点化するとともに，行事間の関連や統合を図るなど精選して実施すること．また，実施に当たっては，幼児，高齢者，障害のある人々などとの触れ合い，自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに，体験活動を通して気付いたことなどを振り返り，まとめたり，発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること」にもあるように，文化祭は，学校内外の参加者もおり，学校の教育活動の発表の場ともなっている．

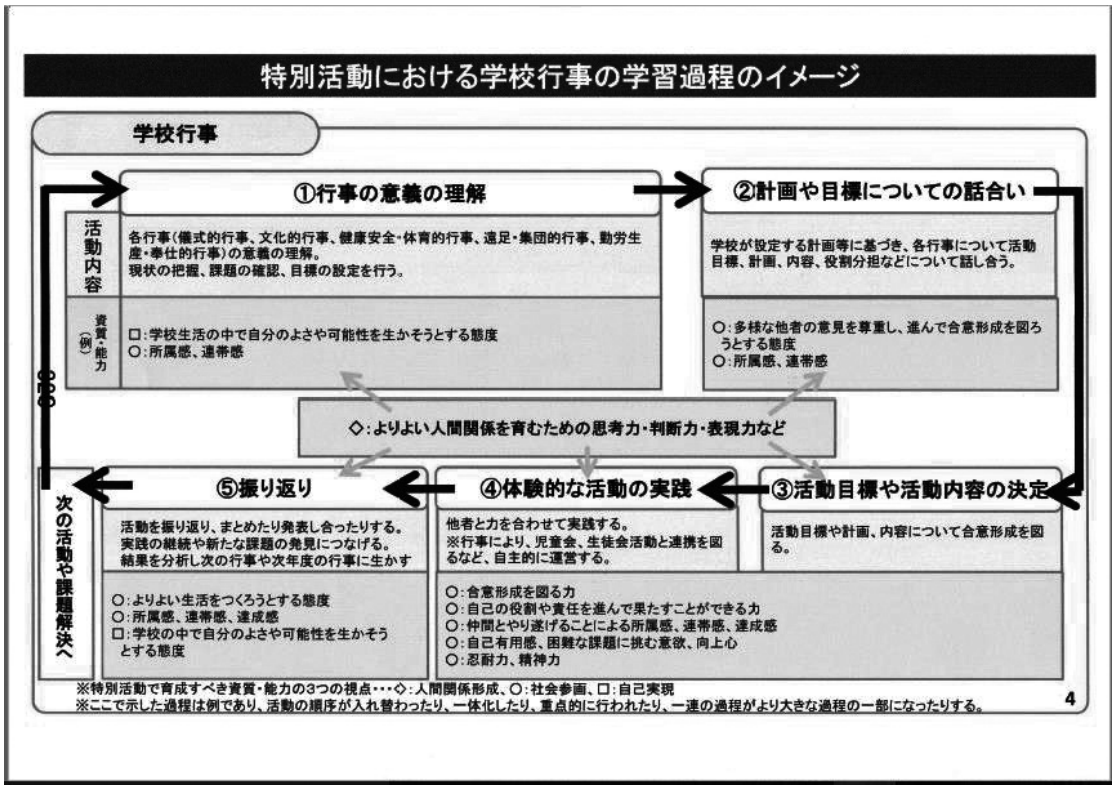

図1　特別活動における学校行事の学習過程のイメージ
（文部科学省：次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（特別活動・総合的な学習の時間）より引用）

4．2　文化的行事における教師の役割―合唱コンクール―

文化的行事には，文化祭，学芸発表会，展覧会や合唱コンクールなどが挙げられる．教師の役割としては，学級担任として受け持っている生徒たちへの指導をはじめ，学校全体として実施しなければならない校務分掌がある．

本稿では，文化的行事の具体的な内容として合唱コンクールを取り上げ，学級・学校文化を創る特別活動【中学生編】[12]の学校行事の参考例を参照し，同書の「つながりを大切にした合唱コンクール」をもとに，学校行事における教員の役割について検討する．あわせて，具体的な事例として，B中学校の合唱コンクールの事例を比較しながら検討する．

事前指導としては，教員は学級活動の中で①学級で歌う合唱コンクールのテーマ曲の選定，②合唱コンクールに関する（クラスでの）生徒の役割，③生徒会への協力依頼がある．特に，学級経営を行うために，日ごろからクラスの雰囲気づくりとともに，合唱コンクールで学級としてどのような方向性を見出すのか，集団の取組で問題が生じた場合の指導・助言が必要となる．例えば，指揮者やピアノ伴奏者の選定において，複数の希望者がいた場合，希望が通らなかった生徒の心理的ケアをどのように行うのかという事が挙げられる．

また，学校全体と捉えるのであれば，生徒会活動についてみていく必要がある．学級テーマの集約や合唱コンクール運営の役割，当日の諸掲示や賞関係の取り扱い等の細かい作業も必要となる．場合によって，地域住民・保護者等への招待にまつわる事項をはじめとする多様なサポートも必要となる場合もある．

4．3　文化的行事における教師の負担

文化的行事を実施するに当たり，その企画・運営を誰が中心となって行うのかは，学校の実情に合った方法を取ることが求められる．文化的行事に関しては，①関連する教科の担当教員や学級担任が連携して行う場合，②生徒会が中心となって生徒が自主的に行う場合，③地域住民にも参加してもらい地域と学校が連携して行う場合に分けることができる．しかし，どの場合においても教員は何かしらの役割と最終責任が生じる．生徒や地域住民が主として動いている場合においても，学校行事の一環として，教育的側面を持った取組が必要となる．

今回取り上げた合唱コンクールに加え，文化祭となると，屋台等の物販や食べ物を扱うこともあり，

表1　合唱コンクールのプログラムの比較

つながりを大切にした合唱コンクール	B中学校：合唱コンクール
○開会	○開会式
・開会の言葉	1．開会のことば
・実行委員長挨拶	2．はじめのことば
・校長の言葉	3．校長先生のおはなし
・発表・審査について	○校歌
○合唱	○太鼓部
・学級合唱	○合唱部
・学年合唱	○審査について
・学校合唱	○全校合唱
○審査	○1年生の発表
○閉会式	○8組の発表
・講評	○2年生の発表
・審査結果―表彰	○PTA　合唱
・実行委員長挨拶	○3年生の発表
・校長の言葉	○吹奏楽部
	○閉会式
	1．講評
	2．結果発表・表彰
	3．実行委員の紹介
	4．おわりの言葉

（国立教育政策研究所教育課程研究センター：学級・学校文化を創る特別活動（中学校編），2016，p101及びB中学校ＨＰより引用し筆者作成）

検便等の衛生上の問題や金銭トラブルの問題等にも配慮しないといけない．

小学校から中学校，高校と年齢が上がるにつれ，生徒の自主性に任せた・生徒が主体的に運営する文化祭（文化的行事）となっていく．しかし，どの場合においても学校の教育課程の一環として，教育的マネジメント・カリキュラムマネジメントの視点を持って，教員は指導していく必要がある．

こういったことは，教員の負担感の一要因になっていると考えられる．なぜならば，教員主体で展開できず，常にリスクを想定しながらも，ギリギリまでは生徒や地域住民の自主性を尊重し，その上で，一線を超える前に対処をする必要があるからである．

5．体育的行事における教師の負担感―体育祭・運動会を例に―

5．1　特別活動における体育的行事の意義

学習指導要領において，体育祭などの健康安全・体育的行事は，学校行事に位置づけられており，主に「心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め，安全な行動や規律ある集団行動の体得，運動に親しむ態度の育成，責任感や連帯感の涵養，体力の向上などに資するような活動を行うこと」を指している．

5．2　体育的行事の内容

体育的行事の具体的な内容として，『学級・学校文化を創る特別活動【中学生編】』の参考例をもとに考察する．本稿では同書の体育的行事の参考例「卒業生の思いをつなぐ運動会」をもとに，関東地方のA中学校の体育祭のプログラムから行事内容を探る．

5．2．1　開会式

開会式では，参考例及びＡ中学校それぞれで内容に大きな差は見られない．生徒らの代表，校長，来賓からの挨拶，競技に向かう状態を作り上げるセレモニーとなっている．

5．2．2　競技や演技

次に，競技や演技について検証する．参考例にもあるように，競技は個人種目，学年種目，学級対抗競技などに分かれ，それに演技（ダンス）が加わる．Ａ中学校の場合，競技内容は，100m 走や2人3脚，大縄跳びなど個人種目から学年種目まで22競技で構成されている．また，男女，学年を考慮し競技内容が構成されているようである．

5．2．3　閉会式

閉会式については，参考例，Ａ中学校ともに違いは見られない．参考例では，感想発表（各学年代表）があり，子供たちの言語活動の育成にも有効といえよう．

5．3　体育祭における教師の負担

体育祭を実施するにあたって生じる教師の負担について検討する．教師の負担は体育祭の実施前，実施後，当日の3つに分けることができる．

実施前は，学習過程のイメージにある「②計画や目標についての話合い」において，子供たちが計画や役割分担を話し合う中で，多様な他者の意見を尊重し，合意形成を図ることができるかなど，学級や学年集団を幅広く見渡すことが必要になるであろ

表2　運動会のプログラムの比較：開会式

参考例「卒業生の思いをつなぐ運動会」	Ａ中学校
・開会の言葉	(1)開会宣言
・実行委員会委員長挨拶	(2)校歌斉唱
・校長先生挨拶	(3)生徒会長挨拶
・来賓挨拶（PTA　会長）	(4)校長挨拶
・応援や競技上の諸注意	(5)PTA 会長挨拶
	(6)優勝旗返還
	(7)選手宣誓
	(8)諸注意
	(9)全校体操

（国立教育政策研究所教育課程研究センター：学級・学校文化を創る特別活動（中学校編），2016，p103及びＡ中学校ＨＰより引用し筆者作成）

表3　運動会のプログラムの比較：競技

参考例「卒業生の思いをつなぐ運動会」	Ａ中学校
・個人種目	・100m走
・学年種目	・跳んでついてポン
・ダンス	・80mハードル
・学級対抗の大縄跳びや綱引き	・2人3脚
	・クラス対抗リレー
	・騎馬戦
	・大縄跳び
	・綱引き　　など

（国立教育政策研究所教育課程研究センター：学級・学校文化を創る特別活動（中学校編），2016，p103及びＡ中学校ＨＰより引用し筆者作成）

う．加えて，来賓への依頼時における子供たちの指導を含めた対外的な活動や外部からの評判という心理的な負担も予想される．当日は，来賓や保護者への対応もあるが，第一に子供たちの安全管理に集中する必要がある．特にケガや事故の予防のため，施設や設備管理の入念な確認が必要であろう．

最後に，実施後には，学習過程のイメージにある「⑤振り返り」があり，子供たちが課題を見つけ，次につなげることができるかなど，自己の行動からの課題発見力等をどのようにして育成するか考える必要がある．加えて，地域社会を含めた外部へのあいさつなど対外行事も負担となるであろう．

６．入学式・卒業式の負担要因

６．１　特別活動における式典の意義

入学式や卒業式は，儀式的行事に位置づけられている．内容は，「学校生活に有意義な変化や折り目を付け，厳粛で清新な気分を味わい，新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと」を指している．

儀式的な行事は全校を単位として行われることが多いため，各学校は，地域コュミニティの文化や慣習を重んじるとともに，児童生徒の実態に応じて式典の内容に特色を持たせ，学校の全体計画の中で前後の行事との関連や統合を図るなどの創意工夫をしている．

式典における儀礼･儀式的な行動は，児童生徒に，学校，社会，国家など集団への所属感を深める目的で行われているが，儀式的な行動の具体例として，「国旗掲揚・国歌斉唱」が挙げられる．小・中・高等学校の学習指導要領の第3指導計画の作成と内容の取扱いにおいて，「入学式や卒業式などにおいては，その意義を踏まえ，国旗を掲揚するとともに，国歌を斉唱するように指導するものとする．」とあるが，その根拠となる法律は，平成11年法律第127号「国旗および国歌に関する法律」であり，今まで慣習法として定着していたものが成文法として明確に規定された．

６．２　卒業式までのスケジュール

『学級・学校文化を創る特別活動』に掲載されている「生徒会活動と関連付けた卒業式」の事例をもとに，事前・当日・事後の教員の役割と負担感を考察していく．

６．２．１　事前指導

事前指導としては，教員は学級活動の時間を活用して，卒業学年には，「卒業を前にして」「5年後への手紙」などを題材にして，自分の心境を整理させ，今後への抱負を決めるなどの活動を通して，卒業式参加への意欲を高めさせる．1・2年生には，「先輩になる自分」を題材に3年生の業績を振り返らせ，卒業式の意義の理解を進めるとともに，望ましい自分の姿を考えさせる．並行して音楽科の教科指導での歌唱指導が考えられる．

式が近くなると卒業証書授与や式歌の練習を学年単位などで行い，予行練習を通して，礼儀や伝統を重んじる気持ちを高めて，学校の校風の醸成も目指して指導をしている．

また，生徒会が主体となり，式後に「3年生送る会」を計画し，感謝の気持ちや尊敬の念を表し花束贈呈や卒業生退場の際の送り方の検討を行い，準備を行っている．

６．２．２　卒業式当日のスケジュール

卒業式当日の流れについて概観する．参考としてＦ県におけるＣ中学校と比較する．

卒業式の次第においては，参考例及びＣ中学校それぞれで式の進行に大きな差は見られない．Ｃ校の事例のように，最近は，式歌や合唱に力を入れて見せ場を作っている学校が多い．学校独自の選曲により，厳粛で緊張した空気の中に，思い出や頑張ったことをたたえるような歌詞の合唱が行われ，会

表4　運動会のプログラムの比較：閉会式

参考例「卒業生の思いをつなぐ運動会」	Ａ中学校
・実行委員会挨拶	(1) 成績発表
・講評（教頭先生）	(2) 表彰
・結果発表	(3) 講評
・表彰	(4) 実行委員長挨拶
・感想発表（各学年代表）	(5) 閉会宣言

（国立教育政策研究所教育課程研究センター：学級・学校文化を創る特別活動（中学校編），2016，p103及びＡ中学校ＨＰより引用し筆者作成）

場にいる卒業生・在校生・教員・そして保護者がひとつになり感動する場面を作り上げるセレモニーとなっている．また，C中学校では，卒業証書を受け取る様子をプロジェクターで映し，参列した保護者に生徒の顔がよく見えるように配慮している．

6．2．3　生徒会主催の卒業生歓送

生徒会主催の卒業生歓送会では，在校生による紅白アーチを作成し，アーチの下を卒業生がくぐりながら周りに在校生が並びながら拍手で見送ることが多い．このように，生徒中心となり盛り上げることを通して，卒業生と在校生がお互いに信頼を深めることができると考えられる．

6．2．4　入学・卒業式と入試の関係

4月の始業式・入学式に始まり，3月の卒業式・終業式で終わる学校行事は，1年間を通して実施されている．年間スケジュール表6に示したが，教員は行事すべてに何らかの形で関わっており，教科科目の学習指導に加えて，学校行事を安全に実施するために入念な検討と事前指導や準備及び事後指導を行っている．

入学式と入試の関係について，東北6県の2016年公立高等学校の入試スケジュールを調べたところ（以下，学力検査・合格発表の順），青森県は3月8日･14日，岩手県は3月9日･16日，宮城県は，前期：2月3日，後期：3月9日，前期：2月12日，後期：3月16日であった．秋田県は3月8日・16日，山形県は3月10日・17日，福島県は，一期：2月2日，二期：3月8日，合格発表は両期とも3月14日であった．いずれの県も3月半ば前後の合格発表であったことから，わずか2週間足らずで入学式当日に発表されるクラス編成や新入生とその保護者に配布する資料等の事前準備を行う必要があり，教員は，春休みの間も労力を割いていると推察される．このようなことを踏まえると，教員は，学校行事に教育的意義を持たせ，かつ参列者に配慮した工夫を実行するために時間をかけていることが伺える．同時に，教員は4月に異動があり，初めての環境でこれらの準備を行わなければならないことは，負担感を増大させる懸念が残る．

7．結語にかえて

本稿では，特別活動における学校行事に焦点をあ

表5　卒業式のプログラムの比較

参考例「生徒会活動と関連付けた卒業式」	C中学校
【1】卒業式　～式次第～	1 開式のことば
・国歌斉唱	2 国家斉唱
・卒業証書授与	3 学事報告
・校長式辞	4 卒業証書授与
・来賓祝辞	5 校長式辞
・送辞	6 来賓祝辞
・答辞	・市長　・議会代表　・ＰＴＡ会長
・式歌	7 来賓紹介・祝電披露
・校歌合唱	8 記念品授与
【2】学級のお別れ会(卒業式後の帰りの会)	9 送辞
・卒業生の自発的な企画・運営	10 答辞
【3】卒業生歓送（生徒会主催）	11 式歌
・在校生全員による心のこもった歓送を行う．	・さよならと言おう　・遙か
例：花束贈呈やアーチで退場など	・旅立ちの日に
	12 校歌
	13 閉式のことば

（国立教育政策研究所教育課程研究センター：学級・学校文化を創る特別活動（中学校編），2016，p99及びC中学校ＨＰより引用し筆者作成）

てて，学校現場の多忙感・負担の要因の考察を試みた．文化的行事，健康安全・体育的行事，儀式的行事それぞれに行事そのものを遂行することの負担と付随する事前準備・事後指導の負担が明らかになった．表6は，年間の学校行事の事例をまとめたものである．年間を通して毎月，学校行事が組み込まれており，特に年度始めの4月と年度終わりの3月に集中していることがわかる．

つまり，教員は通常の授業（教育活動）及び校務分掌に加え，学校行事などの諸活動の準備を校内・校外とも協働して行っている．子供たちへの教育活動として必要不可欠ではあるが，準備等に教員の労力が割かれ，他の教育的指導への影響および教師個人の精神面など，ワークライフバランスが崩れることが危惧される．今後は，行事だけでなく特別活動のさまざまな場面において，教員の負担を見直し，コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）や学校支援地域本部事業などを活用し，多少とも教員の多忙および多忙感を軽減することを特別活動の観点からも検討すべきであろう．

また，本論では教員の経験年数や職制に対する詳しい検証までは行うことができなかった．今回は事例として中学校を取り上げたが，学校規模によっても多忙感は異なり．小学校・高等学校は中学校と異なる特別活動や行事の位置づけとなるがそこまで言及できていない．これらのことは，今回の検討結果を基に，引き続き今後の研究の課題とする．

表6　1年間の学校行事事例の一覧

4月	始業式	儀式的行事
	入学式	儀式的行事
	新入生歓迎会	生徒会活動
	健康診断	健康安全・体育的行事
	避難訓練	健康安全・体育的行事
5月	遠足	旅行・集団宿泊的行事
6月	生徒総会	生徒会活動
7月	球技大会	健康安全・体育的行事
8月	小中交流活動	生徒会活動
9月	避難訓練（災害時の引き取り訓練）	健康安全・体育的行事
	合唱コンクール	文化的行事
	文化祭	文化的行事
10月	運動会	健康安全・体育的行事
11月	職場体験活動	勤労生産・奉仕的行事
12月	地域美化活動	勤労生産・奉仕的行事
1月	音楽鑑賞会	文化的行事
2月	薬物乱用防止教室	健康安全・体育的行事
3月	三年生を送る会	生徒会活動
	卒業式	儀式的行事
	修了式	儀式的行事

（国立教育政策研究所教育課程研究センター：学級・学校文化を創る特別活動（中学校編），2016，p118－119より引用し筆者作成）

文　　献

1）国立教育政策研究所：OECD 国際教員指導環境調査（TALIS）のポイント.
http://www.nier.go.jp/kenkyukikaku/talis/，2015.（2017.11.9確認）
2）北神正行，高木亮：教師の多忙と多忙感を規定する諸要因の考察Ⅰ―戦後の教師の立場と役割に関する検討を中心に―．岡山大学教育学部研究集録，**134**(1)，1-10，2007.
3）高木亮，北神正行：教師の多忙と多忙感を規定する諸要因の考察Ⅱ ―教師の多忙感としてのストレスの問題を中心に―．岡山大学教育学部研究集録，**135**(1)，137-146，2007.
4）布川淑：教師の多忙と多忙感―公立高等学校教師の教育活動に関する聞き取り調査にもとづいて―．立命館産業社会論集，**42**(3)，87-108，2006.
5）神林寿幸：課外活動の量的拡大にみる教員の多忙化―一般線形モデルを用いた過去の労働時間調査の集計データを分析―．教育学研究，**82**(1)，25-35，2015.
6）神林寿幸：教員の業務負担に着目した生徒指導・特別活動―過去の実態調査の経年分析―．東北大学大学院教育学研究科研究年報，**64**(1)，229-246，2015.
7）文部科学省：小学校学習指導要領―平成20年3月告示―．東京書籍，東京，2008.
8）文部科学省：中学校学習指導要―平成20年3月告示―．東山書房，京都，2008.
9）文部科学省：高等学校学習指導要―平成21年3月告示―．東山書房，京都，2009.
10）文部科学省：学習指導要領「生きる力」.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1356249.htm，2015.（2017.11.7確認）
11）中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会：次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（案）.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm，2016.（2017.11.7確認）
12）文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター：学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）．1 版，ぎょうせい，東京，2016.

（平成30年 1 月22日受理）

A Study of the Sense of Busyness in Schools in the Guidance of Extra-curricular Activities：Focusing on School Events

Maho TANAKA, Kunitomo SAKUMA and Noriko SATO

（Accepted Jan. 22, 2018）

Key words : extra-curricular activity, school event, special activities, entrance ceremony, teacher of busy sense

Abstract

The purpose of this research was an attempt to consider the factors of the teacher's burden based on several cases of the sense of busyness and the burden of school events, focusing on special activities in school events. This is a comparative study where we compare the teaching of school events up to now and the teaching of school events according to the revision of the new Education guidelines. Some studies have claimed that Japanese teachers are working long hours in comparison with other countries. As a result of our investigation, the burden of the event itself and the burden accompanying it became clear in each of events. As for the time needed for preparations, time is essential to give to instructional activities, but the labor of the teacher for preparations occupies much of the time, and there is a concern about the collapse of the work-life balance including the influence on other educational instruction. We review the burden on teachers as well as events in various scenes of extracurricular activities and suggest that a reduction in the feeling of pressure of the teacher and pressure from the viewpoint of extracurricular activities in future, be made.

Correspondence to : Maho TANAKA

Department of Health and Sports Science
Faculty of Health Science and Technology
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-0193, Japan
E-mail：mahotanaka@mw.kawasaki-m.ac.jp
（Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.27, No.2, 2018 347－357）